

令和4年3月高浜市議会定例会会議録（第3号）

日 時 令和4年3月4日午前10時

場 所 高浜市議場

議事日程

日程第1 一般質問

本日の会議に付した案件

議事日程のとおり

一般質問者氏名

1. 杉浦康憲議員 (1) 教育行政について
- (2) 新型コロナウイルス対策について
- (3) 環境行政について

出席議員

1番	荒川 義孝	2番	神谷 直子
3番	杉浦 康憲	4番	杉浦 浩一
5番	岡田 公作	6番	柴田 耕一
7番	長谷川 広昌	8番	黒川 美克
9番	柳沢 英希	10番	杉浦 辰夫
11番	北川 広人	12番	鈴木 勝彦
13番	今原 ゆかり	14番	小嶋 克文
15番	内藤 とし子	16番	倉田 利奈

欠席議員

なし

説明のため出席した者

市 長	吉岡 初浩
副 市 長	神谷 坂敏
教 育 長	岡本 竜生
企 画 部 長	深谷 直弘
総合政策グループリーダー	榊原 雅彦
総 務 部 長	杉浦 崇臣
財務グループリーダー	清水 健

市 民 部 長	磯 村 和 志
経済環境グループリーダー	東 條 光 穂
福 祉 部 長	加 藤 一 志
介護障がいグループリーダー	野 口 恒 夫
福祉まるごと相談グループリーダー	野 口 真 樹
健康推進グループリーダー	内 藤 克 己
こ ども 未 来 部 長	木 村 忠 好
こども育成グループリーダー	磯 村 順 司
文化スポーツグループリーダー	鈴 木 明 美
都 市 政 策 部 長	杉 浦 義 人
土木グループリーダー	清 水 洋 己
都市計画グループリーダー	島 口 靖
防災防犯グループリーダー	杉 浦 睦 彦
上下水道グループリーダー	石 川 良 彦
学校経営グループリーダー	岡 島 正 明
学校経営グループ主幹	鈴 木 剛

職務のため出席した議会事務局職員

議 会 事 務 局 長	竹 内 正 夫
副 主 幹	神 谷 直 子
主 査	杉 浦 幸 宏

議事の経過

○議長（柳沢英希） 皆さん、おはようございます。

本日も円滑なる議事の進行に御協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

午前10時00分開議

○議長（柳沢英希） ただいまの出席議員は全員であります。よって、これより会議を開きます。
お諮りいたします。

本日の議事日程は、お手元に配付してあります日程表のとおり決定して御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（柳沢英希） 御異議なしと認めます。よって、本日の議事日程は、お手元に配付してあります日程表のとおり決定いたしました。

これより本日の日程に入ります。

○議長（柳沢英希） 日程第1 一般質問を行います。

初めに、3番、杉浦康憲議員。1つ、教育行政について、1つ、新型コロナウイルス対策について、1つ、環境行政について、以上3問についての質問を許します。

3番、杉浦康憲議員。

○3番（杉浦康憲） 皆様、おはようございます。

それでは、議長のお許しをいただきましたので、1つ、教育行政について、1つ、新型コロナウイルス対策について、1つ、環境行政について、一問一答方式で行います。

今日は3月4日ということで、昨日で中学校の卒業式も終わり、卒業した生徒たちにとって、新たなステージの始まりの日なのかと思います。ただ、学校では、いまだに新型コロナウイルスの影響で、子供たち、先生におかれましても困難な状況の中、何とか学校生活を送れるように努力されているとお聞きします。もう2年が過ぎたコロナ禍ですが、子供たちの学びを止めるはこととはなく進んでいます。

以前にも一般質問でお聞きしたのですが、新学習指導要領のこと、そして、この4月から始まる教科担任制について、簡潔にお聞きします。

では初めに、令和2年度より小学校における新学習要領が完全実施となり、3・4年生に年間35時間の外国語活動が、5・6年生に年間70時間の外国語科が位置づけられました。2年間の実施期間を終えて、外国語活動、外国語科の授業の現状と課題を教えてください。

○議長（柳沢英希） 教育長。

○教育長（岡本竜生） 外国語活動、外国語科の授業ですが、愛知県から2名の専科教員の加配がありました。この2名が、全ての小学校の4年生及び6年生の外国語活動、外国語科の授業を外国人英語指導助手と共に行っております。英語専門の加配教員や外国人英語指導助手から学ぶことで、楽しく外国語に慣れ親しみながら、外国についての力を高めております。

一方、3・5年生は担任と外国人英語指導助手で授業を行っております。学校によっては、英語の得意な教員が教科担任として指導に当たっております。英語の得意な教員など、どの学校にもバランスよく配置することは難しく、この点が課題となっておりますが、中学校に在籍する英語科担当教員の活用を考えながら、今後の対応を進めてまいりたいと考えております。

○議長（柳沢英希） 3番、杉浦康憲議員。

○3番（杉浦康憲） ありがとうございます。

小学校ですから、英語もまずは遊びの要素がよいとは思いますが、やはり早くから触れ合うことは大事だし、学年によっては取りあえず、外国人から指導してもらえるとというのは、学びが深くなるものだと思います。

ただ、コロナ禍で外国からの入国が制限されているのが心配ですが、今も小・中学校を越えて

先生の活用を考えられているということをお聞きしましたので、少し安心しました。今後も児童の学びを止めないようによろしくお願いいたします。

次に、小学校において、2022年から高学年で教科担任制が始まっていくと聞いています。なぜ、小学校においても教科担任制が求められているのか、その背景と現状について教えてください。

○議長（柳沢英希） 教育長。

○教育長（岡本竜生） 教科担任制の狙いとしては、専門性を持った教員が知識と技術を生かした指導を行うことで、学習内容の理解度や定着度を高めること、1人当たりの教師の担当する授業数を減らせること、それによる授業準備の効率化により教員の負担軽減を図ること、複数の教員により多面的な児童理解を図ること、中1ギャップの解消を図ることなどが挙げられます。

本市においては、既に実施の可能な学年において、教科担任制を用いて授業を行っております。教員からは、担当する教科数が減ることで、教材研究にかける時間を削減できたり、別のクラスで行った授業の改善点を次のクラスの授業に生かしたりすることができ、有効な取組であるという声が届いております。

また、子供たちからは、教科によって先生が変わるので、気持ちを切り替えて新鮮な心持ちで授業を受けられる、教科の専門の先生の授業は分かりやすいなどといった声が上がっております。

○議長（柳沢英希） 3番、杉浦康憲議員。

○3番（杉浦康憲） ありがとうございます。

中1ギャップ対策など、様々なメリットがあることが分かりました。確かに一度の授業だと、うまくいかなかったところも改良できるし、一度やることによって、先生方も新たな指導ができると思います。高浜市では、既に一部導入しているということなので、対応もスムーズにしていけるのかなと期待しております。

次に、教科担任制には様々な手法があります。学校や学年内の担任が授業交換して実施、学級担任に専任の加配教員を加えての実施、近隣の中学校の教員を活用しての実施、学級担任と専任の加配教員がチームティーチングで実施など、様々な形がありますが、高浜市ではどのようにやっていくのか、その方法による効果と課題も教えてください。

○議長（柳沢英希） 教育長。

○教育長（岡本竜生） 小学校には、中学校のように教科のバランスを考えて教員を配置することができません。よって、現在実施している教科担任制は、学年の担任同士が自分の専門や得意な教科を交換して行ったり、担任を持っていない教員がその教科を専門に担当したりといった形で実施しております。また、音楽など特に専門的な技能が必要な教科については、県費や市費により非常勤講師を任用し、全小学校に配置をしております。

実際に、その年度のその学校の教員配置や学年配置により、中学校のようにどの教科でも教科担任制を実施することはできませんが、担任による授業を中心に教科担任制の授業もあるという

姿が現実的であると考えております。

今後も、実践を進めながら研究を重ねて、子供たちにとっても教員にとっても有意義な教科担任制の在り方を研究してまいりたいと考えております。

○議長（柳沢英希） 3番、杉浦康憲議員。

○3番（杉浦康憲） ありがとうございます。

先生の配置など難しい課題もあるとは思いますが、先ほども小・中学校の垣根を越えての対応も考えているなど聞きましたので、今後も研究を進め、この高浜市の学校に合った教科担任制を築いていただくことを期待いたします。

学校は今、本当に難しい対応を求められていると思います。小学校高学年での教科担任制、GIGAスクール構想もそうですが、システムにこだわらず、子供たちの学びのために何が最適なのかを追求していただくことをお願いしたいと思います。

次の質問に移ります。

言うまでもなく、現在、新型コロナウイルス感染症は第6波に入り、昨年8月、9月の感染者数ピークを大幅に上回るペースで感染拡大し、子供への感染者も増えているようです。

私が心配しているのは、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、感染予防のために外出控えにより、本来受けるべき予防接種や健診の受診控えが起こることです。成人健診やがん検診は、疾病の早期発見や早期治療につながる機会となり、乳幼児健診は、子供の成長を確認できる機会となります。さらに、乳幼児期から始まる定期の予防接種は、標準的な接種年齢が決められています。

では初めに、子供の定期接種の接種状況について教えてください。

○議長（柳沢英希） 福祉部長。

○福祉部長（加藤一志） お子さんの定期の予防接種は、対象の感染症にかかりやすい年齢が接種時期となっています。保護者の皆様には、コロナ禍にもかかわらず定期接種を受けていただいております。令和3年度についても、令和元年度、令和2年度とおおむね同様の数字となっています。

保健師も、赤ちゃん訪問の際に定期接種の大切さをお伝えするとともに、乳幼児健診の際には接種履歴を確認して、未接種の場合には接種を勧奨しています。

また、市が導入した母子手帳アプリは、接種時期のお知らせ機能がありますので、アプリの活用も呼びかけています。

○議長（柳沢英希） 3番、杉浦康憲議員。

○3番（杉浦康憲） ありがとうございます。

例年同様の数値ということで安心しました。乳幼児健診では、定期接種の履歴を確認し、必要時には接種を勧められていることをお聞きし、乳幼児健診を受けることの大切さがよく分かりました。今後も引き続き、保健師さんやアプリを使っでの呼びかけをお願いしたいと思います。

それでは、コロナ禍での乳幼児健診の受診率に変化はあるのか、お聞かせください。

○議長（柳沢英希） 健康推進グループ。

○健康推進G（内藤克己） 乳幼児健診は、4か月児、1歳6か月児、3歳児、5歳児の健診と、歯科検診を行う2歳児歯科検診を実施していますが、保護者の皆様の御協力もあり、コロナ禍であっても受診率が大きく下がることもなく、乳幼児健診の受診率は9割を超えています。

○議長（柳沢英希） 3番、杉浦康憲議員。

○3番（杉浦康憲） ありがとうございます。

定期接種同様に乳幼児健診が順調に進んでいるとお聞きし、安心しました。引き続き、健診や予防接種を控えることなく受けていただくよう、市民の皆様に啓発に努めていただきたいと思います。

次に、一番気になるところなのですが、例年どおりの状況とはいえ、やはり新型コロナウイルス感染を避けるために、定期接種を受けないという選択をする方も見えると思います。

では、定期の予防接種は接種期間を過ぎると任意接種になるのか、お聞かせください。

○議長（柳沢英希） 健康推進グループ。

○健康推進G（内藤克己） 保護者の皆さんの御協力もあり、子供の予防接種は順調に進んでいます。

一方で、令和2年3月19日、厚生労働省から、接種のための受診による感染症への罹患のリスクが、予防接種を延期することによるリスクよりも高いと考えられる場合など、規定の接種時期に接種ができない相当な理由があると市町村が判断し、やむを得ず規定の接種時期を超えて定期接種を行ったものについても、定期接種として取り扱って差し支えないことが示され、コロナ禍における救済措置が設けられています。

本市においても、既に3件の申出をいただき、接種を行っています。

○議長（柳沢英希） 3番、杉浦康憲議員。

○3番（杉浦康憲） ありがとうございます。

私だけかもしれませんが、既に厚生労働省から、そのような救済措置の通知が出ていたことを知りませんでしたので、対象者への周知もお願いしたいと思います。

続いて、新型コロナウイルスワクチンの接種についてお伺いします。

オミクロン株については、感染拡大の速度が非常に速く、全国的にも新規感染者が増加していることから、少しでも早くワクチンの追加接種を進めていくことが必要です。とりわけ高齢者は重症リスクも高いことから、早い接種が望まれます。

高浜市では、1月中旬から新型コロナワクチンの追加接種が始まっていますが、まずは初回接種、1回目2回目の実施状況を踏まえて、追加接種の実施に当たって苦勞された点、また新たに取組まれた点があれば、教えてください。

○議長（柳沢英希） 健康推進グループ。

○健康推進G（内藤克己） まず、昨年9月に国から、12月1日からの3回目接種に向けて接種

体制の確保をするよう通知があり、市では接種のスタートとなる接種券の発送を速やかに実施できるよう準備を進めてきました。特に3回目の追加接種については、国の方針が幾度も変更となるなど、接種主体である市町村は限られた時間の中で、その都度対応することとなりました。

そうした中、令和3年7月15日までに2回目接種を終えられた65歳以上の方、約6,100人へは1月13日に接種券を送付させていただきました。

また、新たな取組としては、これまでの高浜豊田病院のみであった市ホームページからのネット予約を拡大し、市内の希望される診療所についても、ネット予約が可能となりました。このことにより、医療機関窓口での予約の混雑緩和を図るとともに、接種希望者は24時間いつでも予約することができるようになりました。また、市公式LINEにより情報発信も新たに始めています。

○議長（柳沢英希） 3番、杉浦康憲議員。

○3番（杉浦康憲） ありがとうございます。

皆さん、前回の予約経験もあることや、ネット予約も拡大されたことにより、既に大きな混乱もなく進んでいるように感じます。

では、確認の意味で、新型コロナウイルスワクチンの接種対象者のうち、既に2回の接種を終えている方の接種率と、市内診療所や高浜豊田病院での接種の状況を教えてください。

○議長（柳沢英希） 健康推進グループ。

○健康推進G（内藤克己） 2月25日現在で2回目の接種を終えている方は3万7,483人で、接種率は86.7%です。そのうち、市内診療所で接種された方は1万9,053人、50.8%、高浜豊田病院で接種された方は7,533人、20.1%、企業等が実施する職域接種及び県の大規模集団接種で接種された方は7,822人、20.9%という状況となっています。

○議長（柳沢英希） 3番、杉浦康憲議員。

○3番（杉浦康憲） ありがとうございます。

市内の診療所の先生方で約51%、高浜豊田病院で約21%と、高浜市内で約72%もの接種実施がされていたということで、地域医療機関の存在の重要性を改めて感謝いたします。

次に、3回目の追加接種についてお聞きします。

前回も出たので、かぶるかもしれませんが、現在の追加接種の進捗状況を教えてください。

○議長（柳沢英希） 健康推進グループ。

○健康推進G（内藤克己） 追加接種については、当初、新型コロナウイルス感染症に係る臨時の予防接種実施要綱に基づき、医療従事者等及び高齢者施設等の入所者等は、2回目接種からの接種間隔が6か月以上、それ以外の方は8か月以上とされていましたが、1月18日に愛知県の方針により、接種対象者全員が接種間隔6か月以上に短縮されました。最も早い医療機関では1月14日から接種が始まり、1月25日からは高浜豊田病院、そして、2月5日からは安城更生病院の

県の大規模集団接種も始まっています。

何より、オミクロン株においても高齢者の重症化リスクが高いことから、高齢者の方へできるだけ早く接種券をお届けすることを心がけてきました。

次に、2月25日現在の状況ですが、既に9,935人が追加接種をされています。追加接種は18歳以上の方が接種対象になりますので、分母は3万5,205人となり、接種率は28.2%です。

なお、重症化リスクの高い65歳以上の方は、2回目接種完了者のうち、既に80.7%が接種を終えられています。

○議長（柳沢英希） 3番、杉浦康憲議員。

○3番（杉浦康憲） ありがとうございます。

では、実は今朝なんですけど、高浜市が今どんな予約状況なのか、実際自分にも接種券が来ていたので確認してきました。今朝の現在段階ですが、ファイザーでは3月22日、モデルナなら3月14日で予約が取れるというのが今現在ですが、そういったことが分かりましたので、ワクチンの種類を選ばなければ、意外と早く打てるのだなということが分かりました。しかし、ここはやはり皆さん、いろいろな御希望があると思います。

では、次の質問に移ります。

オミクロン株による新型コロナウイルス感染症の特徴は、若い世代、特に12歳未満の人にも感染が広がっていることです。12歳以上への新型コロナワクチン接種には、既に開始されていますが、5歳から11歳の小児に対する新型コロナワクチンについても、1月21日に特例承認されたため、3月以降に接種が開始される見込みとお聞きしています。

では、高浜市では5歳から11歳の小児へのワクチン接種をどのように進めていくのかお聞かせください。

○議長（柳沢英希） 健康推進グループ。

○健康推進G（内藤克己） 5歳から11歳の小児へのワクチン接種につきましては、昨年11月に国から小児用ファイザー社ワクチンを使用することを前提に、接種体制の検討と関係機関との調整を進めるよう通知がありました。市では、この通知を受けて、市内医療機関へ小児用ワクチンに関する情報をお伝えするとともに、ワクチン接種の体制確保に向けて準備を進めてきました。

小児用ワクチンの第1便は3月4日に市へ納入され、3月7日の週から市内5医療機関で順次接種していただけることとなっています。既に対象者には接種券をお送りしています。

○議長（柳沢英希） 3番、杉浦康憲議員。

○3番（杉浦康憲） ありがとうございます。

ちなみに、小学生の娘を持つ我が家にも既に接種券は届いております。

今回の5歳から11歳の接種には、様々な情報や報道を耳にします。私もその世代の親として、周りのお父さんお母さんとお話しします。やはり子供たちのことですから、皆さん、自分自身以

上に慎重になっているように感じます。しっかりとした情報を精査し、御判断いただければと思います。

ただ、新型コロナワクチン接種は強制ではなく、あくまで本人の意思に基づき接種をしていただくものです。中には、様々な事情で接種を受けたくても受けられない方もいるのも事実です。こうしたワクチン接種を受けない方への配慮について、市の取り組み方を福祉部、小学校、幼保と、その対象者についてそれぞれ教えてください。

○議長（柳沢英希） 健康推進グループ。

○健康推進G（内藤克己） まず、市では広報やホームページを通じて、ワクチン接種については、接種による効果と副反応のリスクを正しく理解した上で、自らの意思で接種の判断を行っていただくとともに、職場や周りの方などに接種を強制したり、接種を受けていない方に差別的な扱いがされたりすることのないよう呼びかけています。

○議長（柳沢英希） 学校経営グループ。

○学校経営G主幹（鈴木 剛） 小・中学校におきましては、12歳以上のワクチン接種が開始されたとき、ワクチン接種の有無を問うことが偏見や差別につながる恐れがあることを教職員に周知するとともに、子供たち自身がワクチン接種の有無を話題にし、差別や偏見につながるようなことがないよう指導をするように、各学校に依頼をしてきました。

ワクチンの接種につきましては、やはり各家庭が判断をしていくことであるため、接種の案内はしますけれども、接種の依頼はしないという立場で進めてまいりました。

今後も、接種の有無が差別や偏見につながらないように、同様に進めてまいりたいと考えています。

○議長（柳沢英希） こども育成グループ。

○こども育成G（磯村順司） 幼稚園、保育園等では、保護者の方に対しまして、新型コロナワクチンの接種は保護者の意思に基づき判断するものですので、それについて強制されたり、接種の有無で差別的な対応があってはならないことを、県からチラシが送付されてまいります予定でありますので、そういったものを使って掲示板等で周知していきたいと考えております。

○議長（柳沢英希） 3番、杉浦康憲議員。

○3番（杉浦康憲） ありがとうございます。その点もしっかりとお願いしたいと思います。

改めて言うまでもありませんが、医療機関、行政、全ての関係者に感謝するとともに、この2年を超えるコロナ禍が一日も晴れることを切に願います。

続いて、環境行政について。

まず初めに、ごみの回収に当たり、来年度から変更事項につきましてお聞きしたいと思います。

地域の拠点は、大体7時から8時で運営されていますが、早朝に資源ごみを搬出することが困難な方を対象に月4回、稗田町にある不燃物搬入場を特別拠点とし、全ての資源ごみの受入れを

行っています。この特別拠点では、仕事や子育て、介護など様々な事情により早朝の分別拠点を利用できない方にとっては、とてもありがたいという声も聞いていますが、周辺道路の渋滞や近隣店舗への違法駐車などの問題が発生しているともお聞きしております。

現在、月4回開設されている特別拠点を4月からは月2回と半分に減らす代わりに、1回の開設時間を2時間から4時間に増やすことで、月当たりの開設時間数は変えないという内容でした。開設時間数に変更はなくても、今まで月4回利用できていたのに、4月からは月2回しか利用できないと、一見不便になるようにも感じられますが、なぜこのような変更を行うのかお聞かせください。

○議長（柳沢英希） 経済環境グループ。

○経済環境G（東條光穂） 本年4月から、特別拠点の開設回数を4回から2回に減らす一方で、1回当たりの開設時間を2時間から4時間に延長いたします。

特別拠点は、仕事や育児などの事情で平日の早朝実施している地域の拠点に資源ごみが出せない方のために開設しているものです。地域の拠点には毎週、資源ごみを搬出することができますが、週によって搬出できる資源ごみの種類が違っております。瓶類や缶類などは第1週と第3週の月2回、紙類やペットボトルは第2週と第4週の月2回となっております。つまり、資源ごみの種類ごとに、それぞれ月2回搬出する機会があることとなります。瓶類や缶類をそれぞれの拠点に搬出する場合は、自宅で2週間分ためておき、決められた日に持っていくこととなります。一方で、特別拠点は毎回全ての種類の資源を搬出することができますので、地域の拠点と同じ月2回の開設に変更するものです。

また、1回当たりの開設時間を2時間から4時間に延長することにより、利用者が分散されて、渋滞の解消につながるものと期待しております。

○議長（柳沢英希） 3番、杉浦康憲議員。

○3番（杉浦康憲） ありがとうございます。

資源ごみは、町内会が運営する拠点に出すのが基本だとは思いますが、様々な事情で地域の拠点に搬出できない方も見えます。今後も周辺の状況などを確認しながら、ごみ出しの仕組みづくりをお願いしたいと思います。

また、あわせて4月からスプレー缶の穴を空けずに出せるようになりますが、立ち当番の籠にスプレー缶に穴を空ける道具もあり、穴空けを徹底していたように思いますが、なぜ穴を空けずに出すことになるのかお聞かせください。

○議長（柳沢英希） 経済環境グループ。

○経済環境G（東條光穂） スプレー缶の穴空きについては、環境省環境循環局から廃エアゾール製品等の排出時の事故防止についての通知がありました。内容は、スプレー缶の穴空けを住民に対して指導している市町村があるが、不適切な方法で穴を空けると、火災が発生する恐れがあ

るため、搬出する際に穴空けをしない方法が望ましいというものでした。

そこで、スプレー缶の収集事業者と調整した結果、本年4月からは穴が空いていない状態でスプレー缶を回収し、その後、事業者側で穴を空けていただくことになりました。

ただし、クリーンセンター衣浦へ直接スプレー缶を出される場合につきましては、現段階では対応ができておりませんので、今までどおり穴空けをお願いいたします。

○議長（柳沢英希） 3番、杉浦康憲議員。

○3番（杉浦康憲） ありがとうございます。

変更された理由が分かりましたので、私もこれから皆さんに伝えていきたいと思います。

次に、資源ごみの立ち当番制度についてお聞きしていきます。

資源ごみ分別収集拠点の町内会による立ち番については、平成7年10月から始まり、今日まで継続されてまいりました。このごみの立ち番制については、これまでに何度もお伺いしていますが、今後も町内会の皆様の協力をいただき、続けていくお考えなのかどうか改めてお聞きいたします。

○議長（柳沢英希） 市民部長。

○市民部長（磯村和志） ごみの立ち当番制は、混ぜればごみ、分ければ資源といった考え方の下、ごみの減量とリサイクルを推進するために始まっております。市民の皆さんが交代で立ち番をすることによって、分別方法を知っていただくとともに、分別収集拠点への不法投棄の防止、そして、何より御近所同士の交流を深め、助け合いの精神、コミュニティーの醸成が図られると考えております。南海トラフをはじめとする巨大地震が心配される中、常日頃から顔を合わせ、お互いの近況を知っておくことは、いざというときの共助にもつながってまいります。

そして、どこの分別収集拠点を見ましても、正しく分別が行われ、きれいに管理されているのは、立ち番をされる市民の皆さんのおかげであると感謝をいたしております。

今後も、市民の皆さんの御理解、御協力を賜りながら、助け合いの精神を醸成し、このごみの立ち番制を継続することができればと考えております。

○議長（柳沢英希） 3番、杉浦康憲議員。

○3番（杉浦康憲） ありがとうございます。

私も毎週、分別収集拠点を回りますが、どの拠点も、立ち番をされる市民の皆様の努力もあり、正しく分別が行われていると思います。

確かに当番すると、お隣とはいえ、なかなかゆっくり話す機会のないので、その時間を楽しみにしている方や、久しぶりと話し込む姿を見るのも珍しくありません。

では、次にお聞きします。

分別収集拠点の場所や数、さらに立ち当番を実施する時間帯というのは、行政側で決定をし、各町内会へお願いしているのかどうか教えてください。あわせて、来年度から立ち番を廃止する

お隣の碧南市の状況も分かる範囲で教えていただければと思います。

○議長（柳沢英希） 経済環境グループ。

○経済環境G（東條光穂） 分別収集の場所については、おおむね100世帯に1か所設置できるような地域の状況を確認した上で、町内会と協議を行い、決定しております。分別収集拠点を設けるには、ある程度の広さを確保する必要があるため、容易に設置できるものではなく、地域の事情により変更になった場所もあります。

次に、拠点数につきましては、分別収集を始めた当初から、およそ市内120か所で推移しており、増減はほとんどありません。一方で、碧南市ではおおむね330世帯に1か所設置をされており、市内全域で約90か所拠点があるとお聞きしております。複数の町内会で1か所の拠点を使っているところもあるそうです。

続いて、立ち番を実施する時間については、当初6時半から8時半までの2時間実施しておりました。その後、町内会ごとに開設時間の短縮や変更が行われまして、現在では30分や40分と短い時間で実施している町内会もあります。

○議長（柳沢英希） 3番、杉浦康憲議員。

○3番（杉浦康憲） ありがとうございます。

私が住む沢渡町もそうですが、出勤者への配慮から全体の時間を短くしたり、丁目によって人数を減らすなど、より地域の実情に合わせた立ち方を町内会独自で検討し、変えています。

ここで、少し違う角度から1つお聞きします。

立ち番制度を維持していくためには、町内会の会員が増えることが重要です。現在、高浜市では、転入時に各種手続の中で、町内会の案内申込書が渡され、後日、各町内会の役員に届けるように案内されると思います。それもいいのですが、やはり初めて来た土地で、個人宅に持っていくというのはハードルが高く感じられます。会員拡大の一助として、市役所の窓口や専用のポスト等で仮に受け取ることはできないでしょうか。

○議長（柳沢英希） 総合政策グループ。

○総合政策G（榊原雅彦） 町内会の加入の申込みの手続の部分でございますが、議員言われるように、かつて町内会の加入率の向上施策として、やはり人に直接、初めて会う理事さんとかに出すのはハードルが高いということで、ポストを設置しようということも考えましたが、入会申込み、個人情報がたくさん書いてありますので、すぐに持っていかれてしまうような状況だとちょっとまずいよねというようなこともありまして、市のホームページから入会ができるような形にもシステムを改善して、できるようにしました。月何件か、ホームページから入会の手続をしていただけるような方も見えます。

ただ、今言われるように少し、そのPRが弱いかなというところもございますので、そういった入会のハードルを下げたPRの方法も、しっかりとPRをしていきたいと考えておりますので

よろしく申し上げます。

○議長（柳沢英希） 3番、杉浦康憲議員。

○3番（杉浦康憲） ありがとうございます。

ぜひとも、案内の周知を徹底していただくとともに、町内会の説明も加えていただくことをお願いしたいと思います。

次に、ごみの立ち番を町内会を通じて市民の皆様をお願いする一方で、各町内会に対して、ごみ分別収集事業支援報償金を交付していますが、どの程度の金額が支給されているのでしょうか。また、各町内会はこの報償金をどのような用途に充てているのかお聞かせください。

○議長（柳沢英希） 経済環境グループ。

○経済環境G（東條光穂） ごみ分別収集事業支援報償金は、分別収集拠点の数や世帯数に応じて各町内会に支給しております。今年度の報償金総額は1,118万8,400円であり、100万円を超える支給を行っている町内会もあります。

この報償金は、立ち番をされた皆さんへのお礼や軍手などの消耗品の購入費に充てているとお聞きしております。

○議長（柳沢英希） 3番、杉浦康憲議員。

○3番（杉浦康憲） ありがとうございます。

この報償金についても、当番の方に各町内会が様々な還元方法を独自でされているのをお聞きします。市民の皆様が今後も気持ちよく立ち番を行っていただくために、報償金の充実をお願いいたします。

次に、ごみの立ち当番制を継続するに当たり、町内会に対しては財政的な支援を行うだけではなく、2か月に1度の町内会行政連絡会において、各町内会長さんと意見交換を行うとともに、困り事や要望事項などを聞いていると伺っています。

では、各町内会長さんから実際にどのような意見が出ているのかお聞かせください。

○議長（柳沢英希） 市民部長。

○市民部長（磯村和志） 定期的に開催をしております町内会行政連絡会におきましては、毎回ごみの立ち番制について、様々な御意見を頂戴しております。昨年12月の開催時には、外国人の方の多くが、資源ごみの分別マナーがよくないという御指摘を頂戴しました。その上で、外国人に分別方法をしっかりと指導し、きれいな収集拠点を維持するためにも、今しばらくは町内会によるごみの立ち番が必要なのではないかというような御意見をいただいております。

また、ごみ分別収集事業支援報償金は、町内会活動を行う上で大切な資金になっているようで、町内の皆さんの御理解と御協力をいただきながら上手に活用しておるため、ごみの立ち番は継続したいなどといった御意見がありました。

また、先月の開催におきましては、碧南市が来年度からごみの立ち番をシルバー人材センター

へ委託するという情報を確認するために、ある町内会長さんは自ら碧南市役所を訪問し、聞き取りを行ったそうです。碧南市は、高浜市よりも拠点の数も少ないですし、回収も月2回というふうにお聞きされたそうです。もし、本市においても碧南市と同様の取扱いとなると、かなり不便になってしまうので、安易に立ち番の外部委託は行うべきではないのではないかとといったような御意見も頂戴しております。

○議長（柳沢英希） 3番、杉浦康憲議員。

○3番（杉浦康憲） ありがとうございます。

市内の分別収集拠点を見ますと、町内会ごとにいろいろと創意工夫をされておみえになる一方で、様々な困り事を抱えていると思います。ごみの立ち番制度についても、今後も様々な意見、要望が出ると思います。行政連絡会を通じ、しっかりと地域の実情を確認し、立ち番を継続できるようにお願いしたいと思います。

次に、町内会の中には、ごみの立ち番の一部をシルバー人材センターに委託しているところがあったとお聞きします。また、立ち番廃止予定のお隣の碧南市では、次年度から資源ごみの分別指導をシルバー人材センターへ委託していくと伺っています。高浜市でも、全ての立ち番をシルバー人材センターに委託できないのかとの話をたまに耳にしますが、登録者の減少も聞くシルバー人材センターに現実的に委託をお願いすることは可能なのか、お聞かせください。

○議長（柳沢英希） 経済環境グループ。

○経済環境G（東條光穂） 過去には、ごみの立ち番をシルバー人材センターに委託していた町内会は幾つかありましたが、シルバー人材センターの人材確保が難しくなったことにより、現在は委託している町内会はありません。

次に、碧南市の状況ですが、4月から町内会による立ち当番制を廃止し、各ステーションに分別指導員を配置すると伺っております。この分別指導員をシルバー人材センターに委託するに当たり、報酬を増額し、市の広報や回覧版で人材の確保に努められましたが、思うように集まらず、苦慮しているとお聞きしています。

また、立ち番をやめたある市では、見回り指導員が市内の拠点を巡回して、籠の管理を行っています。早朝2時間の巡回であることに加え、不在となっている時間に拠点へ分別されていない資源が出されてしまい、正しく分別し直す作業が大変で、辞められてしまう方もお見えになり、なかなか受け手がみつからないとお聞きしております。

碧南市と同様に、本市においてもごみの立ち番を委託することが可能かどうかを再度シルバー人材センターにお伺いしましたが、とても人材を確保することはできないので、受託することはできないと回答をいただいております。

○議長（柳沢英希） 3番、杉浦康憲議員。

○3番（杉浦康憲） ありがとうございました。

実は私も先日、シルバー人材センターに伺い、委託のお話を伺ったところ、1つの町内でもやりくりを困っていたのに、会員登録者が減っている中で全体の受託することは考えにくいとはっきり言われました。ただ、現在も行っていますが、急に出れなくなった方をお願いされるスポット的な立ち番は今後も引き続き受けていきますとも言われましたので、申し添えたいと思います。

では、実際に本市のように町内会や地域の方が分別収集拠点の立ち番を行っている自治体は、県内にどの程度あるのでしょうか。碧南市が来年度から立ち番をシルバー人材センターに委託することにより、県内では本市だけが町内会へお願いしているのではないかと聞いた声も聞きますが、愛知県内の状況を把握していましたら教えてください。

○議長（柳沢英希） 経済環境グループ。

○経済環境G（東條光穂） 先月、愛知県内の各市町に資源ごみの分別収集について、幾つかお伺いをいたしました。

資源ごみの回収に当たり、分別収集拠点の立ち番制度があったのは、全部で31市町でした。このうち、拠点の立ち番を町内会が実施しているのは26市町、シルバー人材センターなどに委託しているのが5市町でした。町内会が拠点の立ち番を担っている26市町の中には、行政から言われなくても、自分たちの使う拠点は自分たちで管理するという思いを持ち、地域から自発的に立ち番が始まった自治体もありましたが、やはり、多くの自治体で立ち番を継続させていくために試行錯誤されていることも分かりました。

また、地域にお住まいの一部の方だけが立ち番を行うことへの不公平感から、行政と町内会が協議をして、一旦ごみの立ち番を廃止したものの、その後不法投棄が増えてしまって、結果的に立ち番を復活したということがあることも、そういう市町村もありました。

現段階では、碧南市以外に立ち番の廃止や委託を考えている市町はなく、今後も立ち番を継続していくとのことでしたので、本市も情報交換をしながら、町内会によるごみの立ち番を継続してまいりたいと考えております。

○議長（柳沢英希） 3番、杉浦康憲議員。

○3番（杉浦康憲） ありがとうございます。

本市と同様に資源ごみの立ち番を町内会にお願いしている自治体が県内に26もあり、どの自治体も人材の確保が難しく、試行錯誤を繰り返しながら町内会の方々と協議を重ね、ごみの減量とリサイクルの推進に努めていることが分かりました。

とはいえ、立ち番制度が始まり27年がたち、生活様式も大きく変わりました。立ち番制度に不満がある方が見えるのも事実です。

さきに吉岡市長の施政方針演説の中で、人は不確実なものに仮の回答を見つけないという欲望から、すぐに答えを求めがちになりやすいとの話がありました。シルバー人材センターに委託できるとするのはまさにこのことで、人員的に無理な話に答えは見つけれないと思います。

市政方針演説の中ではさらに、ネガティブ・ケイパビリティとの言葉がありました。不確実な状態に努力して耐え、希望を見いだしていく態度であり、その先の深い発展的な理解を導き出していくという考えだそうです。資源ごみの立ち番制度に大げさな表現かと思われるかもしれませんが、人の問題、予算の問題、環境問題などなどを考えると、誰もが納得できる制度があるとは思いませんが、引き続き地域の意見を聞き、よりよい制度の模索をお願いして、私の一般質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（柳沢英希） 以上で通告による質問は終了いたしました。

これより関連質問を許します。質問は、1人1問、5分以内といたします。

なお、関連質問ですので簡潔にお願いいたします。

15番、内藤とし子議員。

○15番（内藤とし子） 昨日の16番議員の教育行政についての関連質問を行います。

学校で掛けている保険についてお聞きをしますが、校外で顧問がいない、また外部指導登録をしていない指導者の指導する部活で事故があった場合に、保険の対象とならないのかどうか、その点の教育委員会の認識というかお答えをお願いします。

○議長（柳沢英希） 教育長。

○教育長（岡本竜生） 昨日も主幹がお答えしましたが、今現在は南中学校陸上部は、陸上部単体として、南中の敷地内で顧問の指導の下、練習に励んでいるという状態であります。これは、昨年の3月の議会の答弁の中で、南中学校の陸上部は指導のやり方を改めなきゃならないという反省に立って、今現在こういう状況にあります。

今おっしゃられた保険のことにつきましても、実際に事故がそういった状況で起きますと、保険のことについて問題になる可能性がありますので、そこも反省を踏まえて、今の状況に改めたということでもあります。

○議長（柳沢英希） ほかに。

15番、内藤とし子議員。

○15番（内藤とし子） そういう点について、要するに学校のほうの保険は、そういう場合に効かないと、使えないということがはっきりしているわけですね。そういうことについて、先生方には、それはみんな同じようにお話が通っているのか、認識してみえるのかをお願いします。

○議長（柳沢英希） 教育長。

○教育長（岡本竜生） 実際にそういった状況で事故が起きてみないと、その保険が、その活動の様子を報告をして結果を出しますので、起きてからでないと、どこまでの問題かちょっと分かりませんが、でも少なくとも、そういった状況にあるというのは問題と認識しましたので、今のような状況に陸上部の活動は変えました。

それに合わせて、外部指導者登録は必ず行うようにということは、校長会で全ての校長に指示

もしましたし、確認もしました。ですので、全ての学校に必ず顧問の指導の下に部活の指導は行うようにということは、今現在は徹底しております。

○議長（柳沢英希） ほかに。

16番、倉田利奈議員。

○16番（倉田利奈） 今の杉浦康憲議員の関連質問なんですけれども、先ほど2月7日の行政連絡会の中で、碧南市に聞き取りをした町内会さんがいましたよというような御答弁がございましたが、これ、たしか4つの町内会長さんが御意見申し上げておりました。やはり、ほかの町内会長さんたちは、町内会の負担になっているから改善してほしいというふうに私は受け取ったんですけれども、その辺をどのようにお聞きして、どのように受け取ったのかということをお聞きしたいなということと、それから、先ほど立ち当番の報償金が全体で1,118万8,400円という御答弁があったんですけれども、あと拠点が120か所ですよね。そうすると、年間全拠点で前回12か月掛ける4回、48回行った場合5,760回になるんです、これ。そうなった場合、例えば時給1,000円で行ったとしても5,760万円ということで、今の報償金よりもずっと、1,000円だと本当に申し訳ないので例えば1,500円とかでも十分できる金額だと思うんです。その辺りをどのようにお考えなのかということと、あと立ち当番やっているところもあるんだよというお話もあったんですけれども、近隣市におきまして、立ち当番をしなくてもきれいに資源回収を行っているところもありますので、その辺りの研究はどのようにされているのか教えてください。

○議長（柳沢英希） 市民部長。

○市民部長（磯村和志） 町内会行政連絡会につきましては、2月の開催のときは、倉田議員も傍聴されてお見えになりました。実際に各町内会長さんからは、様々な御意見をいただきました。例えば、分別の回数を減らされてしまっただけでは困るんですとか、拠点の数をこれ以上減らしてもらおうと、ごみの搬出が非常に困難になるというような御意見もいただいておりますし、やはり、なかなか町内会で継続していくのは困難であるというような御事情を話された会長さんもお見えになりました。

ですので、私どもは会長さん方の御意見を真摯に受け止めまして、少しでも町内会の皆さんが気持ちよくスムーズに立ち番ができるように、制度のほうは随時見直しを行っておるところであります。

それから、報償金のことにつきましても、2年ほど前にやはり報償金の額を充実させようということで増額をいたしております。現段階で各町内会長さんから、具体的にもっと増やしてほしいというような御意見は頂戴はしておりませんが、今後、立ち番を継続していくために、そういったお声もあれば、そこは考えてまいりたいと考えております。

また、近隣市で立ち番制度を上手にやっているところがあるのではないかとというような御意見もいただきましたので、私ども引き続き、近隣市の様子も確認をさせていただき、参考にできる

ところがあれば、取り入れてまいりたいと考えております。

○議長（柳沢英希） 16番、倉田利奈議員。

○16番（倉田利奈） すみません、ちょっと私の認識と違っているんですけども、立ち当番をやらなくても資源ごみがきちんと回収が行われているという自治体があるという話ですよ。例えば刈谷市さんとかは立ち当番を行っていませんし、東浦町さんも行っていない。これは、それぞれ袋でやったり、それから資源ごみ出せる時間とかを長くしている、そういうことがあるんです。

先ほど報償金の話があったんですけども、やはり年に4回やっている町内会さんとかもあるんです、立ち当番。そういうところは、やはり不公平感があるということで、いろいろお話いただいているんですけども、その辺りどのようにお考えでしょうか。

○議長（柳沢英希） 市民部長。

○市民部長（磯村和志） 各自治体に資源ごみの回収の状況を確認しまして、資源ごみの拠点収集において立ち番を実施しておると回答した市町が31でございますので、もちろんその立ち番制がない自治体もございますので、どのような形で資源ごみの回収を行っているかというのは、また私どものほうで聞き取りをしてまいりたいと思っております。

それから、報償金につきましては、先ほども申し上げましたけれども、2か月に1度の町内会長さんからの御意見を頂戴する中で、特別増やしてほしいとか、さらなる充実を図ってほしいと……

○議長（柳沢英希） 時間となりましたので、質問を打ち切ります。

ほかに。

〔発言する者なし〕

○議長（柳沢英希） ほかに関連質問もないようですので、以上で関連質問を終了いたしました。

以上をもって本日の日程は全部終了いたしました。

再開は3月8日午前10時であります。

本日はこれにて散会といたします。御協力ありがとうございました。

午前10時56分散会
